

令和6年度 第1回東御市総合教育会議 会議録

1 日時

令和6年5月24日(金) 午後3時30分から午後5時

2 場所

公室

3 議題

- (1) 幼保小の連携について
- (2) 保育料軽減事業の拡充について
- (3) 東部地区小学校給食センター建設について
- (4) 学校施設の長寿命化について
- (5) 小中学校の不登校について

4 出席者

○市 長 花 岡 利 夫

○教 育 長 山 口 千 春

○教育委員

教育長職務代理者 小 林 経 明

委 員 直 井 良 一

委 員 五 十 嵐 英 美

委 員 小 林 利 佳

委 員 富 岡 志 津 子

○その他

深井教育次長、土屋教育課長、春原保育課長

高野学校教育係長、小宮山学校施設係長、小林保育係長

長岡指導主事、塚田学校教育係主事

会議録

深井教育次長

ただ今から令和6年度第1回東御市総合教育会議を開催します。
はじめに市長、教育長からごあいさつをお願いします。

花岡市長

皆様大変お世話になっております。

給食センターの問題に関しましては、私の任期が変わるタイミングで、持続可能な体制をつくっていくことが重要であると考えています。食品衛生法が非常に充実してきて給食を提供していくうえで、トップクラスの衛生管理に基づく提供を考えると、各校に給食室を配備するより4校を1つに統合した給食センターの方が子どもたちの安心安全な給食を提供でき、皆様が心配されていることを排除できるものであると思っています。PTA総会等でいただいた意見につきましては、丁寧に対応をさせていただきます。また、来月6月20日(木)に実施を予定しています市民向けの説明会には私も参加させていただきます。何よりも地権者の方の理解を得ていかなければいけませんので、肅々と進めさせていただきます。

新しく就任された山口教育長、富岡教育委員を迎え、パワーアップして皆さんと協力して進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

山口教育長

教育委員の皆様におかれましては、先ほどの定例教育委員会に引き続きよろしくお願いいたします。

本日は、多くの議題がございます。それぞれの説明の後、様々な角度からご意見をいただき、意見交換を進めていきたいところであります。共通理解を図って、業務推進に努めてまいりたいと思います。子どもたちや先生方が安心して園や学校での生活を送ることができる、保護者の方たちも安心して子どもたちを通わせることができる、そんな環境整備を行っていくためにもよろしくお願いいたします。

深井教育次長

ありがとうございました。今年度1回目の総合教育会議ですので、事務局で持っている課題等も含めて忌憚ないご意見等を挙げていただければと思います。

それでは、議題に入らせていただきます。議題(1)幼保小の連携についてです。4月の組織改編により、保育課の事務が教育委員会に委任ということになりましたので、本年度の活動の方向等について示させていただきたいと思っております。

春原保育課長

幼保小接続委員会は令和4年度に新設され、今年度で3年目に入ります。円滑な幼保小の接続を図り、学び手である子どもの視点に立って、切れ目のない支援となるよう幼児教育や小学校教育を構想し、つなぎ、実践し、小1プロブレムや学校不適応・不登校防止対応に資するため、子どもの発達や学びをつなぐ接続カリキュラムの検討・見直しを担当者が毎年行い、次年度へ引き継ぐことを接続委員会で行っています。昨年度の具体的な内容としましては、年2回開催され、園長や校長のほか、年長児担任、小学校1学年担任、保育課職員、指導主事等が参加して、担当者同士の意見・情報交換を行いました。また、和保育園・和小学校がモデルとなってそれぞれの接続カリキュラム(案)の作成を行いました。これらが園と小が円滑に接続するために大きな影響を与えていると感じています。昨年度の具体的な内容から更なる幼保小の接続に向け、今年度は幼保小接続委員会を年3回開催、このほかに小学校区ごとの接続会議や懇談会、各園でのアプローチカリキュラムの作成等を計画しています。

また、長野大学社会福祉学部教授による年長児行動観察も行います。就学前に特別支援教育を専門分野とする教授に、特性のある子どもたちを中心に、行動観察をしていただくことができ、早期からの支援に向けて、小学校へ丁寧につなげています。

深井教育次長

この内容につきまして、ご意見等ありますでしょうか。

五十嵐教育委員

昨年度、2月の幼保小接続委員会を見学に行かせていただきました。とても効率的な会議であると感じました。その中で、各地区で集まって話をする時間があったのですが、和地区の担当者が話し合っている内容が一番特化しているように感じました。モデル園・モデル校であり春原保育課長が園長として先頭に立って進めてきた結果であると感じました。保育園側の方からは、これまで「小学校でここまでできるようにしていかなければいけない」というものがありましたが、それがなくなったことにより、負担がなくなった先生もいたとお聞きしました。今後はもう一歩先をみて、小学校の先生が受け入れるだけでなく、小学校の先生が苦勞したことやそれから子どもが主体的に動くことができるような取り組みをした等、幼稚園の先生にフィードバックをすることで、保育園でも早めに取り組むことができるように、先を見越したような取り組みをしていくことが必要であると感じました。

深井教育次長

幼保小接続委員会は2年前から実施していましたが、組織改編により学校と保育園との結びつきが強くなったかと思います。山口教育長にはこれまで携わっていただいていたのですが、いかがでしょうか。

山口教育長

指導主事として業務に携わらせてもらった際に、小学校と保育園との間で様々な問題があり、数

年前の保育指針の改定によって保育園では本当に苦労されて対応していただいていたと思います。いち早く研修を受けていただく等の対応をしましたが、なかなかうまくいかないような状況でした。令和4年度から幼保小接続委員会を立ち上げました。和小学校の宮下校長が教頭の時に、接続カリキュラムを作成されて、実績もあるということで、保育園長や学校長等多くの方々にご理解をいただいたうえで取り組んできました。年長担当の先生と1学年の担任の当事者同士で意識を持ちながら、実施できてきたことがとてもよかったと感じています。相互理解が図ることができる場となっています。

花岡市長

今まで保育園は福祉の部署になっていました。福祉とは何だろうか、という点を考えたときに、子どものための福祉という話がありますが、親に働いてもらうための施策という位置づけであります。子どもの一生を主体に考えると、保育の面ではなく、やはり学校に関する施策が中心になると考えていました。「子育て」という視点から、より良いものにしていくように対応の方法を変えていかないととの思いで施策を進めています。

また、福祉分野の細かく分かれている縦割りの業務がありますが、全体枠で組み直しながら行っていく必要があると感じています。隣接する分野や業務等、その内容をよく理解していくことが必要であると感じています。例えば、不登校の問題に福祉分野の担当課が関わっていくといった方法です。

このことを通じて、子どもたちにとって良かったという結論をみんなで作ってほしいと感じています。可能であれば、福祉が担当した方が、不登校の児童生徒がいる家庭に適切に対応でき、複雑な状況に対応できるような福祉セクションを考えていきたいと思います。

深井教育次長

長い目で見ながら、特に幼保小接続の内容につきましても、円滑に進めていくことができるように整えてまいりたいと考えています。

直井委員

幼保小に加えて中学校も接続を円滑にしていくという話がありますが、特に北御牧について、中学校の生徒が保育園に行って一緒に遊んでいることをしています。それだけでも違うのではないのでしょうか。小中一貫教育で10年程かけて築き上げてきたつながりを、中学校も交えて円滑に接続できるように幼保小連携に取り入れ、取り組んでいくことが良いと思います。

深井教育次長

続きまして、議題(2)保育料軽減事業の拡充についてです。子どもを産み、育てたいという子育て世帯に支援する内容です。この概要について、説明を事務局からお願いします。

小林保育係長

市では既に第3子以降の保育料の無償化を行っていますが、第2子について保育料を1/2にするなどさらに保育料軽減の拡充をします。拡充後は、第1子で世帯年収360万円未満の場合保育料を1/2、第2子で世帯年収360万円未満の場合保育料を無償化、第2子で世帯年収360万円以上の場合保育料を1/2とします。軽減に係る財源につきましては、現行では市の負担額が1,158万円ですが、拡充後は944万1千円となります。実施時期につきましては、令和6年4月に遡って適用いたします。

深井教育次長

この内容については、6月定例議会でもご説明をさせていただく予定であります。市長、いかがでしょうか。

花岡市長

3歳以上児については既に無償になっており、未満児については有償であります。これは国の方針であります。3歳児以上の多くの子どもが保育園等に通っており、国民の中でもそのような流れができていくということがあります。それを受けて国が負担するという方針であります。時代の流れや、特に長野県では保育施設に預けることが多いという現実があり、それを受けて、公約として第3子からは無償化ということで行ってきました。第2子についてどうしたらよいかを考えていたところ、今回の市長選の公約として保育料の軽減を提示させていただきました。

深井教育次長

続きまして、議題(3)東部地区小学校給食センター建設についてです。東部地区小学校給食センター建設に向けて、現在基本設計等を委託し、進めているところであります。関係者への説明につきましても、進めさせていただいております。6月には市民全体に向けた説明会、さらにはセンター建設検討委員会も立ち上げ検討してまいります。現在の状況について、情報共有も含めてご説明させていただきます。

小宮山学校施設係長

今年度実施しましたPTA総会及び保護者説明会の状況についてご報告します。

PTA総会では、東部地区小学校給食センターの必要性について、その検討経過や方向性、センター化した場合の建設場所や児童数推移予想、費用等についてご説明させていただきました。

その後、5月10日(金)に実施しました保護者説明会では、保護者の皆様に現在の給食室の状況を知ってもらうため、各校の給食室の状況を写真でご覧いただいたり、学校給食センターのイメージをつかんでいただくために北御牧学校給食センターの竣工時のDVDを上映したり、さらには給食センターで使用している保温食缶やアレルギー食対応の食器等も展示してうえでご説明しました。これらの説明会でいただいたご意見につきまして、簡単にご説明させていただきます。

まず、自校方式センター方式に関するご意見についてであります。給食センター方式になった場合、給食の質の低下や品数の減少等、給食の質に関するご意見がありました。また、アレルギー

食の対応についてご意見をいただいています。さらには施設の衛生管理に関わる内容についてです。

次に、センター建設にあたり、情報の公表等に関するご意見であります。小学校の保護者だけでなく、他の市民にも話を聞くべきであるというご意見や、給食センター建設についての情報が少なく、保護者の中でも噂が広がっていて不安になるというご意見もいただいています。さらに、今後の情報の公表について、途中経過がわかるように逐次情報を公表してほしいというご意見もありました。保育園の保護者についても説明してほしいという意見もありました。

この他にも、東部中学校の給食も東部地区給食センターと一緒にするのかといった内容や、建設検討委員会の構成員に関する内容、実際に配食された給食を体験してみたいという内容のご意見も頂戴しました。さらには、センター化した場合に削減できた費用を安全な食材等の提供に活用してほしいといったご意見もいただきました。以上が説明会でいただいたご意見であります。なお、この内容につきましては、教育委員会のHPでも掲載しておりますのでご確認いただきたいと思います。

続きまして、今後の予定についてご説明します。これまでの保護者説明会等でいただいたご意見を踏まえまして、今後の小学校給食センター建設に必要な事項について検討を行うために今後7月上旬を目途に東部地区小学校給食センター建設検討委員会を設置させていただきたいと考えております。この内容については、先ほど開催されました定例教育委員会においてご承認いただいたところであります。また、委員の構成につきましては第2条にありますとおり、4小学校のPTAの代表者、4小学校長、市民の方からご意見のありました保育園代表の方にも参加していただきます。その他栄養教諭や調理主任代表、地産地消を進めていくことに関連して農協代表者、教育委員や識見を有する者、公募で選ばれた者も含め、概ね15名で組織して定期的に開催させていただきます。なお、教育委員からは先ほどの定例教育委員会で五十嵐委員にご参加いただくことになっております。

検討会のほか、6月20日(木)には全市民を対象として説明会を開催させていただきます。保育園の保護者の方に向けたご説明につきましても、現在保育課を通じて日程調整や方法等について検討させていただいているところであります。また、詳細については未定ではありますが、配食を実際に体験していただく機会についても北御牧学校給食センターと調整しているところであります。

また、3月に住民監査請求が行われ、先日その結果について監査委員会から報告がありました。当初請求の趣旨につきましては、これまで行ってきております基本設計や用地取得の業務等について、公金の支出をしてはならないということで監査請求が行われましたが、監査の結果、本請求には理由がないものと認めるということでありました。なお、監査結果につきましては市のHPに掲載していますので詳細につきましてはそちらをご確認ください。

深井教育次長

給食センター建設検討委員会を中心に、その場で出た意見についてはよく聞きながら、協議事項については教育委員会に報告し、また採決するのものとし、市長部局とは総合教育会議等で情

報共有をして検討して進めていきたいと考えています。なお、公募につきましては、6月市報とうみにて募集を行います。この内容について、ご意見等ありますでしょうか。

小林委員

私は柞津小学校のPTA総会に出席させていただきました。説明会の後、学級懇談会があり、そのあと質疑応答をするというようなスケジュールでしたが、質問に7～8人ほどいらっしゃいました。そこに参加された方から、子どもがまだ保育園にいる保護者の意見も聞いてほしいといった声をお聞きました。

直井委員

食材の納品業者にとってある程度の数量がまとまらないと、同じ時間に決められた量を届けることは、とても難しいことでもあります。今後はさらに児童生徒の減少が見込まれ、食材を徹底した温度管理された状態で配送することも作業人員の減少によってさらに難しい状況になってくると思います。こうした状況を考えると、今、センター化の検討を実施していかないと間に合わないと思います。そのためにも、丁寧なご説明はお願いしたいところでもあります。

五十嵐委員

センター化について、賛成している保護者は多数います。良いと思っている保護者の意見もすくいあげていただき、表に出していつてあげてほしいと思います。

深井教育次長

それぞれの学校で行いましたPTA総会に参加できなかった方については、5月10日（金）の保護者説明会で改めてご説明しました。その際に18名の方にご参加いただきました。自校給食の良さを給食センターに取り組んでほしいこと、また、センターとなった際の食材の品質、アレルギー食対応の方法など、様々なご指摘やご意見を頂戴いたしました。なお、市の考え方や出されたご意見は、HPに掲載されておりますのでご覧ください。6月の市民向け説明会でも同様にご理解をいただけるようにご説明していく方向であります。

小林職務代理

給食センター方式になったら何が変わるのか、ということを確認にしていた方がよいです。センター方式になっても味は変わりません。食缶も改良されていますので機能が向上しています。

小林委員

米についてもセンターで炊くという方向性であれば、その点も利点になるのではないのでしょうか。

小林職務代理

そのとおりだと思います。他にもセンター化をすると良い点が多々あります。

小林委員

一つ一つの不安を取り除いていければと思っています。工夫して取組み、自校給食に限りなく近い給食をみんなで作り上げていくしかないと思います。保護者の方も「子どものために」と皆さん考えていると思います。

深井教育次長

今後についても、逐次情報共有させていただきます。

続きまして、議題(4)学校施設の長寿命化についてです。昨年度中に、田中小学校の躯体の健全度について確認し、補修補強計画、長寿命化計画の方針を再確認しました。なお、この内容につきましては、3月定例教育委員会でも報告させていただいています。

また、施設に関しましては、本年度から3年間かけて東部中学校の和式トイレを洋式化し、既に洋式化されているトイレはウォシュレットを設置する改修工事を計画しています。その他雨漏り等の緊急修繕にも対応しているところであります。

当市の長寿命化計画については、平成27年度に総合教育会議にて議論いただき、専門家等の意見を聞きながら緊急性や必要性を踏まえて実施してきました。本日改めまして、田中小学校の躯体調査の結果とともに学校施設の修繕についてご意見をいただきたいと思っています。

小宮山学校施設係

はじめに、昨年度田中小学校で実施した躯体調査についてご説明します。先ほどの深井教育次長の説明にもありましたとおり小学校長寿命化計画を策定しており、その中で順次すべての小学校での耐力度調査を行うこととしています。これに基づき、昨年度田中小学校で躯体調査を実施しました。調査の方法としましては、コンクリート躯体の検体を採取して健全度を測定しました。市内小学校の中で最も古い築48年の田中小学校ですが、計画許容期間65年に向けて新たな補強等は当面不要という結果でありました。一方で、ひび割れ補修や浮き補修等、躯体の健全な維持に対する措置は適宜行う必要があるという指摘をいただいています。

続きまして、今年度から実施しています東部中学校のトイレの洋式化について説明します。今年度は1階職員トイレ、各階の特別教室棟の一部、ほか体育館、プール、外部トイレをそれぞれ改修します。現在は、プールのトイレに着手しており、続いて外部のトイレ、体育館のトイレの順に着手していきます。夏休みの期間等を最大限に活用して、教室棟のトイレの改修を行います。今年度につきましては、9月末までにはすべて終了という予定であります。来年度も改修を行い、再来年度にすべて完了ということになります。これにより、市内小中学校のトイレすべてが洋式化となります。

深井教育次長

このことにつきまして、ご意見等ありますでしょうか。

直井委員

先日、東信教育事務所の主幹指導主事訪問があり、滋野小学校、祢津小学校、東部中学校の訪問に同行しました。その際、教室や廊下の壁がはがれてきており、見栄えが良くないと感じました。天井は比較的きれいでしたが、やはり壁の状況が気になりました。2年～3年に分けてでも改修等を行ってもらえないでしょうか。

また、クラスの児童生徒数が30名を超えてくると、クラス内がとても狭く感じます。人と人の間が狭く、クラス内の状況を見て回る際に物にあたってしまいます。そういった意味では人数に合わせた教室をつくってもらえないでしょうか。北御牧中学校はパーテーションがあり、広さを調節できるようになっています。

小林委員

30人を超えるとクラス内がとても窮屈に見えます。

直井委員

空き教室も出てきていますので、うまく活用できるようにぜひ検討していただきたいです。

深井教育次長

校長や教頭を中心に、学校施設に関わる修繕の要望を挙げてもらっています。すべて一度にできるものではありませんので優先順位をつけて順に行っており、実施計画を策定して進めているところであります。

子どもたちが学校生活を送る校舎内の環境はよくなってきているかと思いますが、費用面も含めて計画的に行っていかなければならないと承知しています。

直井委員

市長にはぜひ小中学校の様子を見に来てほしいです。

花岡市長

長寿命化は、床や壁、天井等をリニューアルしつつ、長持ちさせていきたいと思います。この間、エアコンの導入のほかにタブレット等の導入もあり、施設への対応を蔑ろにして滞っているわけではありませんが、順番を追って対応していかなければならないと感じています。その中で、今年度は東部中学校のトイレの洋式化に着手しています。

小林委員

男子児童の中には、洋式トイレに入っている子どもたちがいます。そういった子どもたちにも対応できるように、やはり洋式トイレは必要であると感じています。

深井教育次長

今回、田中小学校の耐力度調査の結果をもとに、緊急修繕の必要性はないという判断が出ました。まずその点をご承知いただきたいと思います。

ただ、同じ時期に建てた学校については、やはり同じ時期に修繕等が必要になってきます。その中で必要に応じて修繕等を行い、長寿命化を進めている状況であります。

続きまして、議題(5)小中学校の不登校についてであります。令和5年度末現在の不登校等の児童生徒の状況について、年度内の取り組みとともに、不登校となった要因等の考察をさせていただきますのでご報告いたします。

長岡指導主事

年間30日以上を欠席している児童生徒は、小学校では38名、中学校では52名います。令和4年度と比較しますと、小学校では4名の増加、中学校では9名の減少となっています。特に、中学校での減少は、平成29年度以来であります。小学校では4名増えてはおりますが、基準となる30日を数日超えてしまったという状況であります。これらについては、子どもサポートセンターに根気強く支援していただいた結果であると思います。

ただ、昨年度の定例教育委員会の中で、不登校の児童生徒の数にとらわれずに、その子どもたちの多様な学びの場をどのように作っていくのか、ということに焦点を置くということで取り組んでいます。数として不登校の児童生徒が減ることは嬉しいことではありますが、一人ひとりの状況をみると、そこには家庭状況や子どもの発達特性の状況等様々な要因が絡み合っており、不登校児童生徒数では見えない状況であります。そのためにも、子どもたちの学びの場をどのように作っていくかが重要になってきています。

クラスに入ることに抵抗がある児童生徒については、田中小学校の隣にある中間教室の利用も行っています。昨年度の利用状況としましては、6名が継続的に使用しております。中には在籍校での学びに繋がっている児童生徒もおり、学びの場として中間教室が活かされていると感じています。このほか、4月に開所となった第三の居場所「ゆめ・ぼけっと」の活用も始まっています。

不登校の要因として最も多くあげられることは、無気力であります。これには学力、家庭問題、友達関係やゲーム等様々な要因が無気力の状態を作り出していると考えられます。こういった状況をもとに戻していくことはなかなか難しいことではありますが、子どもたちに寄り添いながら話を聞き、少しずつでも学びの場というものを作っています。学校の中では、保健室や相談室、その他の個別ルーム等その児童生徒にとって最も安心して学びの場を探しています。無気力につながっていかないように、子どもたちに支援をしていきます。

深井教育次長

この内容につきまして、いかがでしょうか。

富岡委員

学校で勤務していた時には、「子どもを真ん中に」という合言葉をもとに、教職員みんなで頑張ってきたつもりではありますが、子どもたちの周りには市長をはじめその他大勢の方が熱い気持ち

で関わっていると感じました。教育委員としてできることを行っていきたいと思っています。

深井教育次長

先ほど指導主事の説明にもありましたが、不登校の数字だけでなく、その児童生徒に合った学びの場をどう実現していくのかということも今後も検討していきたいと考えています。今後もその都度情報共有させていただきます。

以上で令和6年度第1回東御市総合教育会議を閉会とさせていただきます。